

第3回（仮称）次期平塚市総合計画策定委員会における意見とその対応

No.	分類	意見内容	対応
1	土地利用の考え方	・第2回策定委員会の意見対応において、「ひらつか海岸エリア」を「平塚海岸」に統一したが範囲が狭いのではないか。もう少し広い範囲で（まちづくり政策部と）検討してもらいたい。	・まちづくり政策部と調整した結果、「海岸エリア」と記載します。 ・なお、龍城ヶ丘の公園整備が完了することを踏まえると、今後は、新港から龍城ヶ丘をつなぐさんぽ道などの整備が進むものと考えます。
2	土地利用の考え方	・「新東名高速道路の全線開通」は、「全線開通」で良いか（海老名から東京までかどうか）。	・全線開通とは記載せず、「新東名高速道路」だけ記載します。 （高速自動車国道法では横浜市が起点、国土開発幹線自動車道建設法では東京都が起点となっていますが、具体的な計画はありませんでした。）
3	土地利用の考え方	・県道410号の後に 線などを入れないと分からない。ツインシティの道路2軸を記載した方が良いのではないか。	・「県道410号（湘南台大神）や道路2軸（愛甲石田大神軸及び伊勢原大神軸）」と記載します。 ・なお、道路2軸は、県道410号（湘南台大神）などと同じ都市計画道路に位置づけられる予定です。
4	土地利用の考え方	・「まちづくりの基本構造」とあるが、この「まちづくり」と後段にでてくる「まちづくり（の基本姿勢）」との使い分け、定義づけをすべき。（まちづくりの基本構造は、都市の基本構造だと考える。）	・見出しを「まちづくりの基本構造」から「都市づくりの基本構造」に修正します。 ・なお、見出し以降の文中における「まちづくり」は、御指摘にある「まちづくりの基本姿勢」で用いている「まちづくり」と同義となっています。
5	土地利用の考え方	・「ア 都市の活力を生み出す土地利用の誘導」において、「既存ストック活用」とあるが、一般に使う表現なのか。例えば、既存ストック「の」活用とするなど。	・「既存ストックの活用」と記載します。
6	土地利用の考え方	・「ア 都市の活力を生み出す土地利用の誘導」において、ツインシティ大神地区内の整備は完了に近づいているため、今後の8年を見据えると、道路2軸や新駅の書き込みが必要ではないか。	・「ツインシティ大神地区は、広域的な幹線道路の整備を見据え、環境との～」と記載します。 ・なお、新駅については、広域的な幹線道路と異なり、都市計画法上の位置づけのような定めがないため、記載を見送ることとします。
7	土地利用の考え方	・「イ 安全・快適な居住環境を形成する土地利用の誘導」において、「大規模施設の跡地の利活用」などといった表現を使って、神大の跡地利用に触れておくべき。表現については分野別施策での記載が参考になるのではないか。	・「大規模施設の跡地利用において周辺環境と調和を図ります。」と追記します。
8	土地利用の考え方	・「ウ 自然環境やまちなみ景観の保全、向上」において、「適正な保全」を図るとあるが、開発の余地があるようにしておくべきと前副市長から言われている。環境保全課とも表現を調整してもらいたい。	・「開発の余地があるようにしておくべき」とは、生物多様性保全アクションプラン等を策定する際の指示事項でした。 ・当該プランでは、自然環境の保全を目的に、全ての開発を制限することはなく、現総合計画の表現の「適正な保全」で、当該プランの目的に沿っているとのことでした。

第3回（仮称）次期平塚市総合計画策定委員会における意見とその対応

No.	分類	意見内容	対応
9	土地利用の考え方	・総合計画における将来土地利用図において、「第二東名高速道路」とあるが、「新東名高速道路」ではないか。	・「新東名高速道路」と記載します。
10	土地利用の考え方	・総合計画における将来土地利用図において、平塚海岸に波のようなデザインがあるが、このまま使うのか。昔の大島航路の印象を受ける。	・平塚市都市マスタープラン（第2次）別冊における記載内容と龍城ヶ丘の公園整備が進むことを踏まえ、現在記載している位置から西側へ移動させます。 ・なお、波のようなデザインは、都市マスタープランに記載されており、情報・魅力発信を意図したものとなっています。
11	土地利用の考え方	・現計画の「（3）土地利用の方向」に記載された内容をもとに各部局（特に産業振興部）の事業が検討されるはず。立地適正化計画の策定や都市マスタープランの改訂を見据えると、総合計画における将来土地利用図を掲載することに理解はできる。冊子に掲載するかどうかは別として、土地利用の方向に記載されるはずの内容を各部局で共有できるようにしておくべき。	・現行計画の「（3）土地利用の方向」に記載されている内容は、神奈川県を整備、開発及び保全の方針を基にした都市マスタープランの記載を要約しています。神奈川県を整備、開発及び保全の方針の見直しに当たって、神奈川県に対して意見を提出しており、その内容を「（2）土地利用の基本方針」に反映しています。
12	本市を取り巻く状況	・「（3）産業」において、「デジタル化や脱炭素化の進展に伴い、サプライチェーンの変化が見込まれる中」とあるが、デジタル化はサプライチェーンに影響がないのではないか。 ・また、脱炭素化の進展に伴うサプライチェーンの変化について、大企業はともかく中小企業では対応が難しいため、記載内容について見直したほうが良い。	・中小企業においても対応は避けられないことから、「デジタル化への対応に加え、脱炭素化の進展に伴うサプライチェーンの変化が見込まれる中」と記載します。
13	本市を取り巻く状況	・「（3）産業」において、国の最新公表データでは女性のM字カーブが改善している。また、労働力率が2020年（コロナ危機）の数字であるが、適正な数値といえるか。	・労働力率（M字カーブ）のグラフはそのまま使いながら、改善傾向にあるM字カーブの「谷」に言及するのではなく、固定的な性別役割意識の解消や男女が平等に仕事と子育てを両立できる労働環境が求められていることを記載します。 ・なお、労働力には、完全失業者や休業者も含まれている（M字の谷に該当するのは、学生・専業主婦など直ぐには働けない方や、求職活動を行っていない方となっている）ことから、コロナ危機において極端に大きな変化はなかったと考えます。
14	本市を取り巻く状況	・「（6）土地」において、用途地域等の面積表を掲載しているが、細かい内容なので基本計画になじまないのではないか。 ・また、この項目のみ記載内容が現状を述べるにとどまり、課題や求められる事項が述べられていない。このため、次の「4人口減少社会への対応」につながる内容としても読み取ることができない。	・御指摘を受け、「4人口減少社会への対応」につながるよう、人口密度に関する記述に変更しました。

第3回（仮称）次期平塚市総合計画策定委員会における意見とその対応

No.	分類	意見内容	対応
15	人口減少社会への対応	・これから全体調整する語句整理だと思いが、文末に「～していくことが必要です。」と「～必要があります。」が同じページに混在しているので、整えた方が良いのではないか。	・「～必要があります」に統一します。
16	人口減少社会への対応	・（１）と（２）で少子化と高齢化に対して「進展」という表現を使っている。一方で（５）デジタル化でも「進展」を使っている。使い分けの方が良いのではないか。	・「（５）デジタル社会への移行（DX）」と記載します。
17	人口減少社会への対応	・「（４）住み続けられる地域づくり」とあるが、ここだけ他とトーンが異なる。内容を見ると「安心・安全なまちづくり」ではないか。	・「（４）安心・安全で暮らしやすいまちづくり」と記載します。
18	人口減少社会への対応	・「（５）デジタル化の進展（DX）」において、「誰一人取り残すことなく」とあるが、デジタルを使わなくても不便を感じていない人もおり、利用を強制するものではないと考える。便利で快適に暮らせるために、すべてをデジタル化する必要はない。間接的でもデジタル化の恩恵が受けられることもある。	・「誰一人取り残すことなく」の削除に合わせて、分野別施策の中でデジタルデバイドの記載を削除します。
19	まちづくりの基本姿勢	・人口減少社会の「到来」とあるが、すでに人口減少社会になっているため、「到来」を使わなくて良い。	・「人口減少社会の到来や少子高齢化の進展」ではなく「人口減少や少子高齢化の進展」と記載します。
20	まちづくりの基本姿勢	・「（５）人口構造や社会の変化に対応したまちづくり」において、人口構造や地域社会を取り巻く環境が「変容し」とあるが、人口構造は「変容」ではなく「変化」するものではないか。	・「人口構造や地域社会を取り巻く環境が変化し、これまでの経験を前提とした対応では解決が困難な課題が生じる中であっても」と記載します。
21	まちづくりの基本姿勢	・「（５）人口構造や社会の変化に対応したまちづくり」において、「これまでの経験を前提とした未来への備えが不確実さを増す中であっても」とあるが、「未来への備えが不確実さを増す」の意図が分かりにくい。	同上
22	まちづくりの基本姿勢	・導入部分において、「2070年までの人口推移を認識した上で、高齢者数がピークを迎える2045年頃の人口構造を踏まえて」とあるが、人口推移を認識ではなく意識ではないか。 ・また、人口構造を踏まえてとあるが、人口構造を踏まえるだけでは不十分で、人口構造がもたらす何かを踏まえるのではないか。	・「人口推移を意識した上で、高齢者数がピークを迎える2045年頃の人口構造が社会経済環境に与える影響を踏まえて、」と記載します。

第3回（仮称）次期平塚市総合計画策定委員会における意見とその対応

No.	分類	意見内容	対応
23	総合計画の 進行管理と推進	<ul style="list-style-type: none"> 「EBPM（証拠に基づく政策立案）の考え方を参考にして、データや根拠に基づいた設計に取り組みます」とあるが、指標の目標値に定性的な表現を用いることと逆行した表現に思われないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「EBPM（証拠に基づく政策立案）の考え方を参考にして、設定した指標（の目標値）に捉われず、様々な要因について議論を深めるとともに、データや根拠に基づいて、課題解決に向けた取組を検討します。」と記載します。 また、SDGsを説明するページにおいて、SDGsローカル指標を参考にするとともに、「目標値ではなく目指すべき方向性（定性的な目標）を設定することで、目標値に捉われず、指標が変動した要因・分析に焦点を当てて、施策の効果を高めるための幅広い議論、検討をしていきます。」と記載します。
24	重点戦略	<ul style="list-style-type: none"> 植木鉢と葉っぱを用いたデザインで全体像を示しているが、内容を理解してもらうのは難しいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> デザインは用いず、重点戦略の考え方や戦略同士の関連性を文字で表現します。なお、第2回策定委員会における、「雇用」と「子育て（少子化）」の関連性を示すべきとの御指摘にも対応できるものと考えます。
25	重点戦略	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略3「自分らしく生きる社会づくり」とあるが、かなり大きい表現になっている。中身と釣り合っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略3は高齢者を対象とした内容であることから、「高齢者の想いに寄り添う環境づくり」と記載します。
26	分野別施策	<ul style="list-style-type: none"> バックキャストを用いる場合、また、社会環境の変化が激しくてもゴールを見失わないよう、目指す姿が重要になる。 目指す姿は、読んだ人が共通の姿を思い描けるようにした方が良い。写真で切り取ったような、あるいは、そこで暮らす人々の姿が目に見えやすいような記述が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘を踏まえて、目指す姿を全般的に見直しました。
27	分野別施策	<ul style="list-style-type: none"> 「デジタル化」と「脱炭素化」の取組を列挙しているが、施策によって記載された取組の差（大小）がある。細かく書かれすぎて基本計画よりは実施計画に記載されるような内容になっている。 関連して、基本計画に合うように表現を丸めた場合、同じような表現が続く可能性がある。この場合、分野単位（1～5）で記載することも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘を受け表現を修正しました。 なお、デジタル化・脱炭素化を取組方針ではなく「デジタル化・脱炭素化の取組」として記載することとしました。見せ方を変えたことにより、デジタル化か脱炭素化のどちらかのみ記載も可能となります。
28	分野別施策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別施策4 - 「まちづくりの拠点形成を推進する」の「現状」において、平塚駅北口から「地区中心部」への歩行者交通量～とあるが、「地区中心部」では分かりにくいので「まちなか」が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘を受け「地区中心部」は削除し、「平塚駅北口から西に向かう歩行者交通量～」と記載します。
29	分野別施策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別施策4 - 「まちづくりの拠点形成を推進する」の「課題」において、「ツインシティ大神地区の拠点としての「価値」を高める必要がある。」と記載されているが抽象的な印象を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「交通の拠点としての価値など」と記載します。